

全国水産・海洋高等学校
ダイビング技能コンテスト
競技種目及びルールブック

令和元年度
以降の大会に適用

全国水産高等学校長協会
教科「水産」研究委員会（潜水部会）

I 大会の趣旨及び目的

本大会は、教科「水産」の新たな教育分野として設置した科目「ダイビング」の充実と発展を目的として設立したものである。

よって本大会は、

- ① 水産・海洋高校におけるダイビング教育の拡大を行う。
- ② 生徒のダイビング技能の向上と指導方法の一層の深化を図る。
- ③ 全国大会開催によりダイビングに対する生徒の意欲を喚起する。
- ④ 水産・海洋教育に対する連帯感と重要性の意識の高揚を図る。

という四つの具体的なことをねらいとする。

II 競技種目

1	スクーバ器材セッティング技能	チーム
2	ダイビングレスキュー	チーム代表者
3	中性浮力コントロールテクニク	チーム代表者
4	200mフリッパーリレー	チーム
5	オクトパスブリージング	チーム
6	50mフリッパー	希望者（個人表彰）
7	筆記コンテスト	代表者（独立表彰）

III 各種目のルール

1. スクーバ器材セッティング技能(チーム)

この競技は、スクーバダイビング器材のセッティングの手順や確実な動作及び安全性

①と速さ及び正確さ②を競う競技である。

[ルール及び競技上の注意]

(1) セッティングの手順の確実な動作及び安全性①の判定

スクーバダイビングの器材が手順通り、スムーズで確実な動作で装着できるかを判定する。(別表の評定表を参照・セッティング手順は問わない。ただし、それぞれで器材をセットした後にバディチェックを行うこと)

判定は、次の手順及びチェックポイントの動作について判定(減点法)し、減点の少ないチームを上位とする。

チェックは選手1人につき審判2名が審査し、減点事項が2名共通で重なった事項のみを減点する。(減点数が異なる場合は2名の中間をとる)得点は選手2人の合計点とする。

器材のセッティングの手順の確実な動作及び安全性のチェックポイント
(本大会では手順の正確さと☆の部分の動作の正確さを採点対象とする)

- 1) タンクをBCに装着する。(始まる前にタンクを横にしておく)
 - ☆ BCを正しい向きに付ける。
 - ☆ BCを取り付ける高さを確認する。
 - (BCの襟の部分なたて、タンクの頭と同じくらいの高さにする)
 - (BCの種類により規定に当てはまらない場合、装着後に頭を後ろに倒させ、タンクの頭にぶつからないことを確認する)
 - (高さの確認は、タンクを立てた状態、寝かせた状態のどちらでもよい)
 - ☆ BCに取り付けたベルトのゆるみを確認する。
 - (持ち上げて2～3回振って、ズレないことを確認する)
- 2) ファーストステージを装着する
 - ☆ オリングがついているか確認する。(発声をはっきりと)
 - ☆ ファースト・ステージを正しい向きに取り付ける。
 - ☆ 中圧ホースをパワーインフレーターホースに取り付ける。
 - ☆ ホース類がねじれていないか確認する。(発声をはっきりと)
- 3) タンクのバルブを開ける
 - ☆ バルブを開ける時は、残圧計(防爆弁含む)が破裂しても安全と確認できる向きで、かつ空気圧で外れてもホースを確保できるよう、ホースとの継ぎ目を保持する。
 - ☆ バルブを少々開け空気の流れたことを確認する。(発声をはっきりと)
 - ☆ バルブを全開する。
 - ☆ バルブを半回転程度戻す。
- 4) 各部をチェックする
 - ☆ 残圧計を確認する。
 - (ゲージ圧を読む：誤差は±10kgf/cm²までOK、発声をはっきりと)
 - ☆ BCについて、給気・排気の確認をする。
 - (給気ボタンを押し、給気の確認をする。そのまま給気し続け、安全弁の動作を確認する。排気ボタンを押し、排気が作動することを確認をする。余分な空気の排気は、安全弁の解放と併用でも良く、BC装着後でも良い)
 - ☆ レギュレーターを2回以上点検する。
 - (パージボタンを押し、臭気の確認、マウスピースをくわえて呼吸(吸気・排気)し作動の確認を、各2回以上する)
 - ☆ オクトパスを2回以上点検する。
 - (臭気確認は必要ないが、他の点検はレギュレーターと同様とする)
- 5) ウェイトベルトを装着する。(ウェイトは最低2kgはつけること)
 - ☆ バックルを左手に持ち、ベルトの先を右手に持つ。
 - ☆ ベルトを跨ぐようにし、上半身を前傾姿勢にしてベルトを腰に乗せる。
 - ☆ 前傾姿勢のままバックルを止める。
- 6) BCを装着する
 - ☆ BCを背負い、肩紐を引く。
 - ☆ BCの前部を着ける。
 - (マジックテープをする、バックルをはめる、バックルの紐の弛みを取る。)
 - (インフレーターのマジックテープや、タンクの脱落防止は採点に含めない)
- 7) バディチェックをする

- ☆ レギュレーターの作動を2回以上確認（パージボタンを押してみる等） 発声
- ☆ タンクバルブ「開」の確認 発声
- ☆ オクトパスの作動を2回以上確認（パージボタンを押してみる等） 発声
- ☆ 残圧確認 発声
- ☆ BCの装着の確認（肩紐、前部のマジックテープ、バックル等） 発声
- ☆ ウェイトの装着の確認（ねじれ、装着のゆるみ等の確認） 発声
（ゆるみの判定が困難な場合、競技終了後にBCをおろさせ、ジャンプしてもベルトが動かないか確認する）

(2) セッティングの速さと正確さの②判定

スクーバダイビング器材の装着スピードと正確さを判定する。

判定は、審判員のスタートの合図から、装着終了までにかかるセッティング自己申告時間の評定(誤差)によって行う。装着の終了は、選手2名による終了の合図（ハイタッチ）時とする。ただし、セッティング自己申告時間は男子は1分45秒から2分45秒以内、女子は2分00秒から3分00秒以内とし、監督者会議において申請する。

$$\text{セッティング評定}(c) = |(a) - (b)| \quad (| \quad | \text{は絶対値の}|)$$

(a) : 自己申告時間

(b) : 実際にかかったセッティング時間

(c) : 評定(誤差)

(3) その他

本大会では、次のように順位を決定する。

- 1) チームの順位は、チーム毎の①・②の順位の合計により決定し、合計の少ない方を上位とする。
- 2) 合計が同じ場合は、①が上位のチームを上位とする。
- 3) ①の項目で失格となったチームは順位を最下位とする。

(例)	Aチーム	①の順位	2位	②の順位	1位	合計	2 + 1 = 3	①下位
	Bチーム	①の順位	1位	②の順位	2位	合計	1 + 2 = 3	①上位
	Cチーム	①の順位	失格	②の順位	3位	合計	最下位	
	Dチーム	①の順位	4位	②の順位	4位	合計	4 + 4 = 8	①下位
	Eチーム	①の順位	3位	②の順位	5位	合計	3 + 5 = 8	①上位

この場合の順位は、上記のルールにより、

1位 Bチーム 2位 Aチーム 3位 Eチーム
4位 Dチーム 最下位 Cチーム となる。

- 4) ②の項目で、正確さを判定するため評定(c)の得点を次のように定める。

セッティング評定(c)の減点換算±	5秒以内	減点なし
	10秒以内	減点1点
	15秒以内	減点3点
	20秒以内	減点5点
	25秒以内	減点7点
	25秒以上	減点9点

ただし、規定時間内(男子は1分45秒から2分45秒以内、女子は2分00秒から3

分00秒以内)から外れた場合は減点15点とする。

同点の場合は②の減点数が少ないチームを、さらに同点の場合はセッティング自己申告時間の評定(誤差)の少ない方を、さらに同点の場合はタイムの早い方を上位とする。

※ 複数でタイム計測し、主計測者を正式タイムとする。

2. ダイビングレスキュー (チーム代表者)

この競技はレスキューのための手順や動作の正確さ①と速さ②を競う競技である。距離は、救助者がフリッパーで25m泳ぎ、事故者を25m曳行するものとする。

[ルール及び競技上の注意]

(1) レスキューの手順や動作の正確さ①の判定

レスキューが手順通り、スムーズで確実な動作で行えるかをチーム毎に判定する。
(判定は別表の評定表を参照)

判定は、次の手順及びチェックポイントの動作について判定(減点法)し、減点の少ないチームを上位とする。なお、事故者がフィン及び手を使って協力した場合は、失格とする。

レスキューの手順及びチェックポイント

(本大会では手順の正確さと☆の部分の動作の正確さを採点対象とする)

(事故者は☆の採点対象以外に △ を厳守し、一切の協力的行為をしないこと)

1) スタート

スタートは原則として「用意」の号令後静止し、スターターの次の合図でスタートする。明らかにフライングが故意と審判長が認めた場合は、**失格**とする。

救助者は、ウェットスーツ及び3点セットを着けた状態でスタート台に立ち、ストライド・ジャンプ(順下飛び込み)で入水する。

☆ 救助者は入水時正しいストライド・ジャンプをしているか
(マスクの上端が見えていること)

△ 事故者は、器材を全て装着し、レギュレーターをくわえた状態で反対側の壁に両手を触れ、うつ伏せの状態顔全体を水中に入れ待機すること。あらかじめ、BCジャケットには空気を入れ、両足は脱力し、組む・たたみ込むなどせず浮かんでいること。

2) 救助に向かう

事故者までは、フィンキックとし、手の使用を認める。

☆ 泳ぐときは顔を水面上に出しているか(ヘッドアップクロール)

事故者から目を離してはいないか(マスクの半分が水面上に出ていること)

救助者は、ターンの時に壁の反動を利用しても良い。

3) 浮力を確保する(5m以内で全て行わなかったら15点減点)

☆ ウェイトベルトを外す

(ウェイトベルトは5mライン内に落とす)

☆ 事故者のマスク及びレギュレーターを外す。

(事故者のフィンの先端が5mライン内で装着部から外す)

4) 曳行する

曳行は、背泳ぎのスタイルでタンクのバルブを手で持った曳行法(タンクバルブ

・トゥー)を用いる。必要に応じ、手の使用を認める。

☆ 曳行の形が正確になされているか。

(事故者の状況を2回以上確実に確認する。確認しながら曳行する場合は、一度顔をそらしてから2回以上確認する)

☆ 事故者は曳行されるときに水面から頭を上げたり、手及びフィンを使わず、手足は脱力する。抵抗を減らすためBCをつかんだり、腕やフィンなどを水面から出す行為も曳行者への協力と見なす。

⚠ 事故者のレギュレーター・オクトパスのフリーフローは採点に含まない。

※タンクバルブ・トゥーの曳行法

- ・スクーバタンクを背負っているダイバーに対しては、BCで浮力を確保して、背泳ぎの形でタンクのバルブをつかんで曳行するのが自然である。
- ・水面の場合は、BCに空気を入れてタンクのバルブをつかんだりして水面を移動して運んでやる。(ダイビングテキストより)

(2) レスキューの速さの判定②

レスキューのスピードを判定する。判定は、審判員のスタートの合図から、ゴール(曳行者が壁にタッチする)までにかかる時間によって行う。

(3) その他

種目の順位は、①と②の2つの項目により順位を決定する。

◇ 各チーム1レースとする。一人が事故者役を、もう一人が救助者役を務める。

◇ 本大会では、事故者の役は同校の選手が務める。

◇ 本大会では、順位の設定はスクーバ器材セッティング技能に準じる。

※ 1コースにつき複数でタイム計測し、主計測者を正式タイムとする。

3. 中性浮力コントロールテクニック (チーム代表)

選手が一定の深さの位置で中性浮力を保って、どのくらい留まっていられるかのテクニックを競う競技である。

[ルール及び競技上の注意]

1) スターターの合図でフィートファーストで潜降開始し、できるだけ短時間に所定のポジション(設定されたリングの中に脇の下から膝までの範囲で体をおさめたうつ伏せの状態)をとる。

◇ 競技開始前はBCにエアを入れ、両耳が水面に出ていることをスターターが確認する。

◇ スタートの位置は、リングの最も浅い頂点を中心とし、おおよそ半径2m以内とする。

◇ リングに体を通すのは、頭からでも足からでもよい。

◇ 2分以内に所定のポジションが取れなかった場合は失格とする。

◇ 中性浮力が取れれば、ウエイトベルト及びウエイトは着用しなくても良い。

2) 選手は、中性浮力のコントロールができたと判断した時点で、定位置保持開始の合図をする。(OKサイン)

3) スタートから定位置保持開始までの時間を計る。

4) 計時終了は体の一部(ゲージ類を含む全て)がリングに触れるか、体(脇の下か

ら膝まで) がリングから出た時点、またはスタートから3分(180秒)経過した時点(タイムアウト)で終了とする。

- 5) 採点は、スタートから選手が定位置保持開始の合図をするまでの時間(a)とスタートから計時終了までの時間(b)、手またはフィンを使い水深移動の行動をとった場合の時間を積算(c)により行う。

中性浮力評定(T) = (a) - (b) + (c)

(a): スタートから選手が定位置保持開始の合図をするまでの時間

(b): スタートから計時終了までの時間

(c): 手またはフィンを使い水深移動の行動をとった場合の時間を積算

- ◇ (T)の数の少ない者を上位とする。
 - ◇ (T)が同点の場合は、(a)の少ない者を上位とする。
 - ◇ 失格者の順位は最下位とする。
- ※(c)の計測は3人の審判で計測し、平均をとる。

- 6) その他

リングは、一辺が120cmの正方形とし、水中に設置(菱形になるようにし、最深部を3m50cmになるように)する。

4. フリッパーリレー(チーム)

マスク、スノーケル、フィンの三点セットを装備し、フリッパーで1人100m泳ぎリレーを行い、合計時間を競う競技である。

[ルール及び競技上の注意]

- 1) 審判長の合図によって第一泳者はプールに入り、背泳ぎの要領でスタート台に向けて両手をスターティンググリップにかける。
- 2) スタートは原則として「用意」の号令後静止し、スターターの次の合図でスタートする。明らかにフライングが故意と審判長が認めた場合は、**失格**とする。
- 3) ターンは体の一部が必ず壁に触れること。
- 4) タッチの方法は、第二泳者は事前に入水し、片手をスターティンググリップにかけて待機し、第二泳者の背中にタッチ後スタートする。
- 5) ゴールタッチは、片手でもよい。
- 6) 競泳中に手及び手首で水をかくことを禁止する。ただし、スタート、ターンの連続動作として壁から5m以内において、スタート時は両手同時のひとかき、ターン前の左右のひとかき(1ストローク)、ターン後の両手同時のひとかきは認める。
- 7) 手は頭より前に出してはならない。ただし、スタート、ターン及びゴールの場合を除く。
- 8) スノーケル及びマスクは必ず用い、スノーケルの先端は必ず水面上に出ていること(潜水泳法の禁止)。ただし、ターンの場合を除く。ターン後は5m以内(浮上時にフィンの先端が5mラインにかかっていること)で浮上すること。
- 9) 泳法はフィンキック(足を上下させるキック。以下フィンキックと称す)とする。ただし、スタート、ターンの動作としての5m以内のドルフィンキックは認める。

- 10) 競技中にフィンが外れた時は、再装着して競技を続けなければならない。
- 11) 選手がコース外に出たなど他選手への明らかな妨害が認められた場合及び上記事項に違反した場合は失格とし順位は最下位とする。
- 12) その他
タイムレースにより順位を決める。
※ 1コースにつき複数でタイム計測し、主計測者を正式タイムとする。

5. オクトパスブリージング(チーム)

エア切れ等のトラブルが生じた場合に、バディで協力しながら浮上する方法である。競技は水平方向で行い、安全・確実さ①と速さ及び正確さ②を競う競技である。

[ルール及び競技上の注意]

- 1) 距離は50mとし、背の立つ(水深1.2m~1.6m程度)プールで行うこととする。
- 2) 選手は、双方ともスクーバ器材をつける。
※ 中性浮力が取れれば、ウエイトベルト及びウエイトは着用しなくても良い。
- 3) スタートは水中に立ち、両者ともプールの壁に触れていること。
- 4) ターン及びタッチは1人の体の一部がプールの壁に触れればよい。
- 5) ターンは左回り(反時計方向)を原則とし、コースからはみ出ないようにする。右回りやコース外へ出た際、他の選手への妨害がなければ減点はしない。ただし、ターン後ゴールまでコース外を移動した選手については、減点5点とする。
- 6) 競技中、タンクもしくはBCなど、お互いに相手選手を確保していなければならない。
- 7) ゴールは1人(最初)のタッチで計測する。(タッチは水面より上で)
- 8) 泳法はフィンキックとする。ドルフィンキックは認めない。
- 9) 順位はスクーバ器材セッティング技能に準じ、合計が同じ場合は①が上位のチームを上位とする。②についてはチームごとにタイムを申告させ、その申告タイム(a)と計測タイム(b)の差をオクトパスブリージング評定(c)とし、この値が小さいチームを上位とする。

$$\text{オクトパスブリージング評定}(c) = |(a) - (b)| \quad (| \quad | \text{は絶対値の})$$

申告タイム(a)
計測タイム(b)

※ (別表の評定表を参照)

- 10) 申請タイム(a)は、男女とも2分以上3分以内とし、監督者会議において申請する。
- 11) 9)の項目で、速さ及び正確さ②を判定するため評定(c)の得点を次のように定める。

オクトパスブリージング評定(c)の減点換算±	5秒以内	減点なし
	10秒以内	減点1点
	15秒以内	減点3点
	20秒以内	減点5点
	25秒以内	減点7点
	25秒以上	減点9点

ただし、規定時間内(2分00秒から3分00秒以内)から外れた場合は減点15点とする。
到着時間が2分より短い場合には重大な危険行為と見なし、失格とする。

(c) が同タイムの場合は、申告タイムの遅い方を上位とする。

- 12) スタート・ゴール・ターン付近5m以外で、体・器材の一部が水面から出た場合は減点5点とする。フィンについてはこの限りではないが、くるぶしより上は体の一部と見なす。
- 13) 移動中は中性浮力を取るとともに、手を使わないことを原則とする。常に着底したまま移動したり、カウントを取るため定期的に手を付くなどの場合は、減点5点とする。

6. 50mフリッパー(希望者)

フリッパーリレーと同様にマスク、フィン、スノーケルの三点セットを装備し、時間を競う競技である。

[ルール及び競技上の注意]

- 1) 審判長の合図によってプールに入り、背泳ぎの要領でスタート台に向いて両手をスターティンググリップにかける。
- 2) スタートは原則として「用意」の号令後静止し、スターターの次の合図でスタートする。明らかにフライングが故意と審判長が認めた場合は、**失格**とする。
- 3) ターンは体の一部が必ず壁に触れること。
- 4) ゴールタッチは、片手でもよい。
- 5) 競泳中に手及び手首で水をかくことを禁止する。ただし、スタート、ターンの連続動作として壁から5m以内において、スタート時は両手同時のひとかき、ターン前の左右交互のひとかき(1ストローク)、ターン後の両手同時のひとかきは認める。
- 6) 手は頭より前に出してはならない。ただし、スタート、ターン及びゴールの場合を除く。
- 7) スノーケル及びマスクは必ず用い、スノーケルの先端は必ず水面上に出ていること(潜水泳法の禁止)。ただし、ターンの場合を除く。ターン後は5m以内(浮上時にフィンの先端が5mラインにかかっていること。)で浮上すること。
- 8) 泳法はフィンキック(足を上下させるキック。以下フィンキックと称す。)とする。ただし、スタート、ターンの動作としての5m以内のドルフィンキックは認める。
- 9) 競技中にフィンが外れた時は、再装着して競技を続けなければならない。
- 10) 選手がコース外に出たなど他選手への明らかな妨害が認められた場合や上記事項に違反した場合は失格とし、順位は最下位とする。
- 11) その他
タイムレースにより順位を決める。
◇ 表彰は個人順位で男女各6名までとする。
◇ 申込みは監督者会議で申請し、その後の選手変更は認めない。
※ 1コースにつき複数でタイム計測し、主計測者を正式タイムとする。

7. 筆記コンテスト（代表者）

この競技はダイビングにおける知識と理解を競う競技である。

[ルールおよび競技上の注意]

- 1) 事務局および大会実行委員の選出した各校の代表1名をもって行う。
- 2) 競技中の私語、質問は認めない。
- 3) 潜水技術検定2級程度の内容とする。問題数は検定と同様の34問と、それに付随する筆記形式の10問程度、内容は非公開とする。検定過去問にて学習すること。
- 4) 同点の場合、筆記形式の得点上位を優位とみなす。

8. 成績

成績については次のように定める。

(1) 男女の部

男子の部及び女子の部の成績は、それぞれのチーム数を最高得点とし、順位が下がる毎に1点ずつ減点し、合計点の大きいチームを上位とする。ただし、50mフリッパーについては学校対抗の得点から除外し、個人表彰(6位まで)とする。

また、合計得点と同じ場合は、各種目の上位の数が多いチームを上位とする。

(2) 総合の部

- 1) 各学校の男女チームの合計得点とし、得点の大きい学校を上位とする。男子の部及び女子の部の成績確定後、チーム数による得点化をし、合計する。
- 2) 男子・女子各2チーム参加校はあらかじめ組み合わせるチームを決めておく。
- 3) 合計得点と同点の場合、種目別内容で上位順位が多い方を上位とする。
- 4) 男女各チームの参加数を最高得点(1位の点数)とし、順位が下がるにしたがって1点ずつ減点する。

(3) 表彰

- 1) 男女の部、総合の部及び筆記コンテストは、全国水産高等学校長協会が行う。
- 2) 各競技種目、50mフリッパー及びベストダイバー賞は、教科「水産」研究委員会潜水部会が行う。

(例) 上記のルールにより順位は次のようになる。(参加8チームの場合)

	第1種目	第2種目	第3種目	第4種目	第5種目	合計得点	順位	得点
Aチーム	1位:8点	3位:6点	2位:7点	2位:7点	2位:7点	35点	2位	7点
Bチーム	5位:4点	8位:1点	3位:6点	4位:5点	7位:2点	18点	4位	5点
Cチーム	3位:6点	1位:8点	4位:5点	1位:8点	1位:8点	35点	1位	8点
Dチーム	2位:7点	2位:7点	5位:4点	6位:3点	5位:4点	25点	3位	6点

CチームとAチームは得点で並ぶが、Cは1位が3種目、Aは1位が1種目、Cが上位

となる。同様に得点が並んだ場合、より上位の種目がある方を優位とし、さらに並んだ場合は上位の数が多いチームを上位とする。

9. ルールの一部変更

競技会場の施設・設備によりルールの一部を変更することがある。

ただし、変更時には全国水産高等学校長協会総会で連絡し、大会要項に記載しなければならない。(今後、会場によりプールの長さや深さ等に違いがでる可能性があるため)

IV ベストダイバー賞

(1) 目的

ダイバーとしてのマナー向上を目的とし、大会全体を通して競技以外の分野で高校生らしい若さあふれる態度で競技に臨んだ生徒を表彰する。

(2) 審査方法

各校の監督が大会前日から競技終了までに、推薦する学校・生徒氏名を所定の用紙に記入し、大会実行委員会事務局まで提出する

(3) 表彰基準

1) 身だしなみがよく、礼儀正しい。

2) ダイバーとしてのマナーとモラルを持ち合わせている。

3) バディを始め他選手への思いやりを感じる。

4) 競技に対しての向上心があり、他選手の技術をよく観察している

※ 競技結果に左右されるMVPに相当する賞ではない。目的や表彰基準に照らし合わせ、ベストダイバーを選出する。

(4) 表彰対象

男女1チーム(バディ)ずつとし、最も票が多いチームを「ベストダイバー賞」として表彰する。

付記	平成22年5月25日	ルール一部改正
	平成26年5月25日	ルール一部改正
	平成30年5月21日	ルール一部改正
	令和元年5月20日	ルール一部改正

V 監督者会議申し合わせ事項

(平成21年8月20日監督者会議録 ~ 令和元年8月20日)
(ルール改正に伴い、ルールブックに反映させた項目は除外する)

- (1) スクーバ器材セッティング技能について
 - 1) **全ての競技後、審判員は減点チェック項目を監督に伝える。**
- (2) ダイビングレスキューについて
 - 1) スタート時の「用意」の号令後、静止を徹底するよう注意。
 - 2) **曳行時の事故者状況確認は、審判へのアピールを兼ねて大げさに行うこと。**
- (3) 中性浮力コントロールテクニックについて
 - 1) OKサインをしっかりと出すよう注意。
- (4) 200mフリッパーリレー・50mフリッパーについて
 - 1) スタート時の「用意」の号令後、静止を徹底するよう注意。
 - 2) **特にターン前、5m以内を厳守し、左右のひとかき(1ストローク)を明確にする。左右どちらかでも、ふたかきにならないよう注意する。**
- (5) オクトパスブリージングについて
 - 1) **手の使用については、評定表の通り減点する。**
- (6) 追加確認事項について
 - 1) 最大限教育的配慮を行う。
 - 2) フリッパー競技において、スターターはフライング防止の点から「用意」のあと速やかに次の合図(笛等)を発すること。タイミングを合わせるため、スタートの公式練習を行う。
 - 3) フリッパー競技・レスキュー競技においてフィンやスノーケル等が外れた場合は、再装着してレースを続けることを原則とする。ただし、審判長が特別なトラブルと認めた場合は、速やかに監督を招集し協議を行う。
 - 4) 選手が使用する器材は市販の物とし、改造したものを使用してはならない。
 - 5) ウエットスーツは2mm以上とし、原則として足首、手首を覆うものを着用する。
 - 6) フード及びスイムキャップの着用は任意とする。
 - 7) 競技中、時計の使用を禁止する。(誤差を競う種目があるため)
 - 8) 高体連種目の参加資格に準じ、同一学年での出場は1回限りとする。
- (7) その他について
 - 1) 参加チーム数制限は大会運営上、男女全体で最大31チーム(競技の進行上)、多数のときは地区枠外、複数チームに出場制限を行う。予備枠については各会場校、前年度検定受検者数の多い学校を優先し、会場校および潜水部会事務局・校長会事務局で決定する。全体枠16校(最大)。
 - 2) 平成27年度より補欠枠を設定、1校につき男子2名女子2名。
 - 3) 可能であれば競技の説明の放送を入れる。

平成 29 年度～

教科「水産」研究委員会
潜水部会ホームページ
<http://senken-web.jp>
潜水部会メールアドレス
info@senken-web.jp

～平成 28 年度

潜水部会のブログ <http://sengi.seesaa.net/>

過去の記録確認用に、しばらくの間ご活用ください

全国水産高等学校長協会
教科「水産」研究委員会（潜水部会）事務局

〒100-0211

東京都 大島町 差木地字下原

東京都立大島海洋国際高等学校 内

担当 今西 弘憲 (イマニシ ヒロノリ)

TEL 04992-4-0385

FAX 04992-4-1764

E-mail : Hironori_Imanishi@education.metro.tokyo.jp

【 緊急用 】 090-5853-8655